

第 18 回グリーンプランおおた推進会議 議事概要

日時:平成 29 年 2 月 20 日(月)18:00~20:00

会場:大田区蒲田地域庁舎 大会議室

出席者:【推進会議委員】島田委員長、池邊副委員長、樋口委員、平澤委員、牧野委員、長谷川委員、谷委員、菅原委員、龍口委員、黒澤委員、荒井委員、市野委員(欠席:原田委員、平賀委員)
【庁内委員】関係各課長 6 名【傍聴者】5 名(うち庁内関係職員 4 名)【事務局】5 名

1. 開会

2. 事務連絡

3. 議事

(1)第 17 回推進会議の振り返り

・事前送付資料 1-1、1-2 について説明

(※意見・質問は特になし)

(2)今年度及び来年度の主な取り組み

① まちづくり推進部

・事前送付資料 2(当日差替)、当日資料 4:湧水調査について説明

・事前送付資料 4:大田区景観まちづくり賞について説明

委員(まちづくり推進部長)

・89 地点のうち確認したのは 45 地点ということだが、他の部分は枯れてしまったのか。

→まちづくり計画調整担当課長

・残りの約 40 地点のうち、じわっとしみ出ている地点が 10 ヶ所程度ある。降雨の後だから水が出ているなど、ここが湧水として断定できるかは微妙で難しい。国の湧水のガイドラインの中でも、しみ出ている程度のところは湧水地点からは外してくださいという話になっているので、今回の大田区の調査でも外している。

→委員長

・生態的な保全という意味と、災害時の保全というように、いくつか切り口がある。天候に関係なく常時ある程度の水量が確保できるかは、災害時は大事になる。

→委員

・馬込地区、池上地区の湧水では、私どもが子どもの頃は道路から約 30~60cm 下に洗い場があった。今でも、スコップで 60cm 程掘ると、水が出てくる場所があるようだ。

委員長

・景観賞について。住んでいるマンションの前の道路を挟んで桂川精螺さんがある。

→委員

・テレビの「下町ロケット」のロケで使われたようだ。中小の工場が集まっていた場所で、最近では大型マンション等の開発がなされているが、1940 年代のものが景観として、歴史的に残るのは大切だと思う。ただ、工場が運営されずに違うかたちで、記念碑的に残ってしまうのは残念。耐震性や経済性など様々な問題があるが、活用されながら残るのが本来のかたちと思う。

第 18 回グリーンプランおおた推進会議 議事概要

② 都市基盤整備部

- ・当日資料 2、4:ブルートライアングルプロジェクト、海辺の親水ネットワーク、みどりあふれる公園・緑地の計画づくり、地域に根ざした公園・緑地の整備について説明

委員

- ・大田清掃工場の緑化対策は素晴らしい。その前の工業団地は維持管理が大変。工業団地と清掃工場の話し合い、運営、緑の維持管理の仕方を検討課題にしてもらいたい。清掃工場は見学コースの観光地になる予定ですが、片方がきれいで、もう片方の工業団地がみすばらしいと調和が取れない。

→環境計画課長

- ・敷地内に整備の樹木等については、一定の要件を満たしたものに限り、保護樹木・樹林の助成制度があります。

→委員

- ・区として緑化条例等を作り、整備していただいた緑地を、助成してまできれいにしなさいという仕組みにはなっておらず、基本的には、設置した時に緑地を確保した上で、事業所・土地の所有者がやってくださいという考え方。

→委員(まちづくり推進部長)

- ・3年前に京浜島の連合会で協議会を作ったので、そちらの会議でもお話しを伺って、対応できるところはしていきたい。

③ 環境清掃部

- ・当日資料 3、4について説明、事前送付資料 3:18色の緑づくり、おおたの名木選、自然観察路の整備、環境基本計画 後期案について説明

(※意見・質問は特になし)

4. 委員長 ご講演

「台湾における休閒農場の事例と特徴」(当日資料 5 を用いて講演)

5. 閉会